

新年あけましておめでとうございます。皆さんには、心新たに仕事始めの日を迎えていただいたことと思います。

新教育長として3回目の新年を迎えることとなりました。本県教育に携わる皆さんのお力を借りて、学び続ける教職員を育成するための研修体系の構築や組織の活性化、事務の効率化など、少しずつ前進することができたと感じています。平素より様々な分野でご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

高度情報化やグローバル化が進展し、変化がますます激しくなるこれからの時代において、子どもたちの何を鍛えて何を伸ばすべきか、真剣に考えなければならない時期にきています。

ご存知のとおり、2045年には、人工知能が人間を超えるシンギュラリティの時代が到来します。知識の量では人工知能に勝つことはできませんが、アイデアを形として表現する創造力、イメージや推論、過去にとらわれない状況判断などは、人間だけに与えられた力といえます。そして、何より「好き」という気持ちはAIには永遠に到達できない領域でしょう。「好き」は夢や志をもつこと、チャレンジすることにつながる原動力です。奈良県の教員には、子どもたちの「好き」を育むことを大切にしてもらいたいと願っています。

これからの社会の変化に対応し、地域の人材として活躍できる子どもたちを育成するため、県教育委員会では、各方面からご意見をいただきながら、現在、県立高等学校の適正配置に向けた検討を行っています。「好き」という気持ちを大切に、夢や志をもち、意欲的に学ぶことができる高等学校を各地域に配置することができるよう、皆でアイデアを出し合っていきたいと思います。

さて、私は趣味で囲碁を打ちますが、囲碁の世界では、「大局観」をもつことが大切であるとされています。局所戦では有利に展開していても、最後の一網打尽にされることがあります。常に大局を把握して「将来重要になるであろう場所」に石をおく能力が問われます。

未来を創る子どもたちのために教育の在り方を真剣に見つめ直さなければならないこのような時であるからこそ、皆さんには、局所戦だけで乗り切るのではなく、視野を広げ、少し高い位置から「大局観」をもって、十年先、数十年先を見据えた仕事をしていただきたいと考えています。

本年が皆さんにとりまして、明るく希望に満ちた実り多い年となりますよう心から祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

平成30年1月4日

県教育委員会教育長 吉田 育弘